

# ふるさと

第 23 号



大空を吹きわたっています

## 目次

故鈴木毅さん(すーさん)を偲んで	.....(1)
第6回(2018)定例総会	.....(4)
講演会・懇親会	.....(5)
遠野の語りを聴いて	.....(7)
私のふるさと福山市	.....(11)

発行：2018年7月21日(第23号)  
発行：麻生ふるさと交流会事務局  
担当：平塚 征英、横田 彰夫

麻生ふるさと交流会

表紙写真：辻村 一男 さん  
タイトル：大空を吹きわたっています  
年 月 日：2017.7月  
場 所：片平の公園  
記 事：夏には光がふりそそぐ  
(すーさん へ)

「麻生ふるさと交流会」ホームページ  
<http://web-asao.jp/hp2/asao-furusato/>

## 故鈴木毅さん(すーさん)を偲んで

宮本 直紀

会員の鈴木毅さんが、7月6日にご逝去されました。これまでのご功労に敬意を表しますとともに、心からご冥福をお祈りいたします。

すーさんとOXのテラスで出会ってから何年になっただろうか。  
カラオケ楽会・ふるさと交流会・蕎麦打ちの会などで顔を合わせた。

ふるさと交流会では運営委員としてご活躍するとともに、石川県のふるさと自慢をお願いし、鈴木家の家宝？の紹介など快く引き受けて頂いた。懇親会には、いつも石川県の地酒「宗玄」を差入れして頂いたことを懐かしく思い出します。

またカラオケ楽会では、成世昌平の「一子」、森進一「おふくろさん」、五木ひろしが歌う「暖簾」などを気持ちよさそうに歌っていたことが印象に残っています。

温厚なお人柄、何事も嫌な顔をせずにお引き受け頂いたこと、良きお仲間を失ったことは残念でなりません。

心よりご冥福をお祈り申し上げます。

合 掌

(麻生ふるさと交流会・事務局長)

## すーさんを偲んで

平塚 征英

7月7日20時過ぎに、宮本さんから訃報メールが入り、鈴木毅さんが6日にお亡くなりになったとのことでした。久しくお会いしておりませんでした。そんなにお加減が良くなかったとは思っておらず、本当にびっくりしました。ご冥福をお祈りいたします。

鈴木さん(すーさんと呼ばせて下さい)には、麻生ふるさと交流会で初めてお会いしました。

会報係を担当していた関係上、ふるさと金沢についての講演内容の取りまとめや、会報への投稿を度々して下さったので、何度かメールのやり取りをさせて頂きました。

会報「ふるさと」のバックナンバーを見ると、すーさんの最初の投稿は第3号(2014/3/1)の故吉森正人事務局長の追悼文「もう一度聴きたいメールメロデー メル友・吉森教授様」で、それ以後にも、ふるさと加賀百万石・金沢について5回も投稿して下さいました。

最初の第6号(2015/1/17)は「ふるさとのお正月特集号」で、金沢のお正月と題して、おせち料理・金沢料理、金沢のお酒、正月のお菓子、正月の遊びの紹介がありました。

2015年3月14日には長野～金沢の北陸新幹線が開業し、第9号(2015/7/11)からは、ふるさと古都・加賀百万石の博物館等、神社仏閣、歴史(加賀騒動、前田家の事)、伝統文化、加賀料理・グルメや伝統民芸等について、4回に分けて詳細写真付きで説明して下さいました。

会報「ふるさと」第23号(本号)は“すーさんの追悼号”として、会員の皆さんから、すーさんの追悼文をお願いしました。また、すーさんからの投稿をまとめた遺稿集もホームページに掲載して、すーさんの思い出として残すことにしました。(詳細はHPをご覧ください)

麻生ふるさと交流会以外では、いつ頃からか白山グリーンタウンの集会所で行う「蕎麦打ち道場の会」にもお誘いがあって、参加するようになりました。すーさんは蕎麦は打ちませんでしたが、連絡役・進行役として活躍されました。私が打った蕎麦は、「ひらつかうどん」などと呼ばれていましたが、和室で行う手打ち蕎麦とお酒の会は、大変楽しい会でした。

白山神社前での花見も何回かありましたが、完全に“花より団子(よりお酒)”の状態でしたが、すーさんは、一度日程を決めたら簡単には変更しないとの芯の強さも持った一面もありました。

裏門坂で新井さんと“ほろ酔い”やりませんか？とお誘いがあった時は、あの辺りでは、へぎ蕎麦屋以外に飲み屋があるとは思えず、結局はマルキと言う非常に変わった店でした。

その後3人で楽しんだのは1回だけと記憶していますが、ふるさと公園での月見の会や何かの折に一人で使わせて貰ったこともありました。

すーさん、今頃はアチラの国で、懐かしい吉森教授とイッパイやっているのでは？

その内、また皆さんとイッパイやりましょう！すぐにと言う訳には行きませんが。

## 名残雪～すーさんを偲んで～

新井 稔弘

2018年3月21日 東京近辺では1月の大雪に次いで、また、雪が降っていた。二度目の雪かきを当日と翌日午前中までかけて行った。汗だく、筋肉痛でへろへろとなった。

22日夕方のすーさんとの“ほろ酔い会”を楽しみにしていた所、すーさんからメールがあり、道路事情が悪く中止との事。

その頃から筋力と免疫力の低下があったのだろうと想像する。

前日のメールでは決行すると記載されていたのだが。ご家族の方が雪道と外出の危険性及び小生たちのことを考えて、すーさんに注意をして頂いた結果であろうと今では思っている。

小柄でいつもにこやかな顔で静かに話され、カラオケ大好き人間だった。しかし、気骨があり人との集まりが好きで、いつも「ほろ酔いしませんか？」とのメールでお誘いがあった。

柿生の鳥宏、百合丘のだるま、ふるさと公園近くのマルキ、新百合ヶ丘の一番など毎回数人での楽しい呑み会であった。特にホッピーセットが好きで、日本酒なら能登の宗玄 only であった。ふるさと交流会懇親会には常に宗玄を差し入れして頂いていた。切れ味のいい呑み飽きのしない日本酒であった。

ところが4月頃から免疫力低下による感染と筋力低下による転倒回避のために、医師から外出を控えるようにとの指示があり、“ほろ酔い会”も途切れてしまった。

そして7月7日、ご子息から突然の訃報をお聞きし、愕然としてしまった。あの時(3月22日)の雪見酒“ほろ酔い会”が出来れば良かったのか!と、今では残念至極で悔やまれる。

これが本当の名残雪か。

5月末にも連絡があり、金沢へ1泊2日。奥様の運転で行かれ、宗玄を5本持って帰ったので、一度“ほろ酔い会”をしようと思ったが、筋力低下のため歩行も困難で、在宅療養に専念して、回復後に一杯やろう。とのメールが入ったのが最後であった。

「黄昏すーさん、天国に行ってらっしゃい！」という気持ちで送り出したい。

## 平成30年度・第1回麻生ふるさと交流会

場 所:麻生市民交流館 やまゆり

日 時:平成30年4月28日(土)

13時30分～17時00分

参加人数 32名、懇親会参加 25名

### 第1部 第6回(平成30年度)定期総会 (13:35～14:10) 司会:宮本事務局長 【敬称略】

#### 1. 開会の辞…辻村副会長

◇ 規約では総会議長は会長が行う事になっていますが、会長が所用で欠席のため、副会長が代理を務めます。

◇ 南北会談のニュースを見ると、金委員長も中々穏やかな性格かとも受け止められます。

#### 2. 平成29年度 活動報告…宮本事務局長

◇ 活動報告一覧表で報告しました。

◇ 内容の説明。参加人数が次第に減少しており、戻すぼみの状態にあり、会員が少しでも増えるよう協力をお願いしたい。

#### 3. 平成29年度 決算報告…吉田会計責任者

◇ 収支決算報告書に基づき説明。平成28年度収支決算は平成29年度のみです。

◇ 少しずつ悪化の傾向にあります。



辻村副会長挨拶

活動報告:宮本事務局長

決算報告:吉田会計責任者

#### 4. 平成29年度監査報告…白石会計監査が欠席のため宮本事務局長が代理

◇ 厳正なる会計監査の結果、正確に処理、整理されており正当と認められます。

#### 5. 新年度運営委員の選出…宮本事務局長

◇ 会長・副会長・事務局長は留任とする。

◇ 運営委員として新しく宮河さんを選出。

◇ 退任は鈴木さん、原さん。本会発足時よりご協力頂いた松岡さんは、残念ながら都合により退任するが、今後とも協力を惜しまないとの事とでした。

#### 6. 平成30年度 活動計画…配布資料について宮本事務局長が説明。

#### 7. 平成30年度 予算計画…配布資料について吉田会計責任者が説明。

#### 8. 質疑応答及び連絡事項…宮本事務局長

◇ 今後の予定など連絡

#### 9. 閉会の辞…宮本事務局長

◇ 現在の会員登録は60名、本日は25名の参加予定。

◇ 総会成立のため委任状を取るかどうかについて、会員の一部よりご意見があり、今後どのようにすべきか。

#### 10. 会歌「ふるさと」を全員で合唱しました。



## 第2部 講演会(大平悦子様)《遠野の民話を聴く》 (14:20～15:50)

- ◇ 司会は講師を良くご存知の平塚さんをお願いしました。
- ◇ サンキン会・かよおう会・わかいの会等からのゲスト参加者が10名もあり、合計35名が参加して下さいました。
- ◇ 民家園の囲炉裏端のような雰囲気照明を工夫しましたが、スポットライトの光が講師には熱かったようでした。



講師の紹介



参加者の皆さん



スポットライトをあびて

- ◇ 東日本大震災の話や、次のような6つの遠野の話を、遠野言葉で語って頂きました。
- ◇ 皆さん、遠野言葉はどの程度お分かりになりましたか？

- ① つらの話
- ② 豆の話
- ③ 東日本大震災の被災地のその後は？
- ④ 娘のシャレコウベ
- ⑤ ザシキワラシ
- ⑥ 頭に柿の木
- ⑦ 字のない手紙



## 第3部 懇親会 (15:55～17:00)

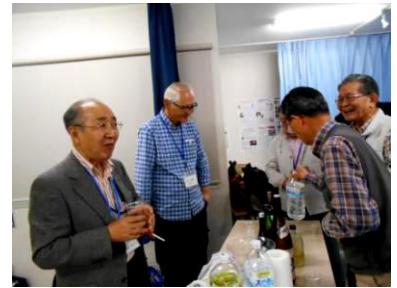
- ◇ 懇親会の司会は宮本さんをお願いし、乾杯の音頭は辻村さんをお願いしました。
- ◇ 第2部「遠野の語り」のゲスト参加者の内、平塚さん友人の櫻木さんと横田さん友人の笹木さんが、ゲスト参加して下さいました。
- ◇ 締め音頭は田中(幹)さん得意の山形の花笠締め《ヤショー・マカショ・で・シャンシャン》で締めました。
- ◇ 今回も多くの方々から、有難い差し入れを沢山頂きました。有難うございました。  
日本酒(南部美人、多摩川、沖縄古酒・宮の華、会津喜多方の弥右衛門)  
とおつまみ・米沢牛のサラミ…宮本・平塚・與那覇・宮河・宮河さん



乾杯！ 音頭は辻村さん



大平さんとゲストお二人



サプライズ！忘れていた料理（開始後 30 分）



花笠締め：田中(幹)さん



いつもの「立つ鳥・・・」

大平さん！ 懇親会までご参加頂き、有難う御座いました。



## 遠野の語りを聴いて

平塚 征英

私が所属しているサンキン会の分科会の一つに、「日本の原風景を訪ねて」という分科会があります。この分科会は、日本の原風景とも言うべき古民家が沢山保存されている生田緑地・日本民家園において、心の原風景とも言える「遠野の語り」を聴こうとするものです。

2015年10月に発足してからそろそろ丸3年になりますが、偶数月の第3土曜日に民家園第22番工藤家の囲炉裏端で、大平悦子さんの遠野言葉で語る遠野の民話を聴いています。

「遠野の語り」は13:30と14:30から30分ずつ2回行われています。

「やまゆり」所属のシニアの会では、定例会に大平さんの「遠野の語り」を企画している例があります。サンキン会では、2017年3月定例会で、かよおう会では今年3月の定例会で、いずれも麻生いこいの家で行いました。

今回の麻生ふるさと交流会での「遠野の語り」は、昨年3月から交渉を始め、10月に実施予定でしたが、会場の予約が取れず、伸び伸びとなっており、今回やっと実現したものです。

4月28日の当日は会員の参加者が25名程度と予想され、従来の交流会に比べて寂しい限りなので、運営委員から会員外の参加を誘い、10名ものゲスト参加がありました。

合計35名の参加者があれば、言い出しっぺとしては一安心でした。

サンキン会分科会「日本の原風景を訪ねて」の代表のSさんは、遠野の語りを聴く際には話のあらすじをメモして、例会の報告に使ってあります。私には詳しいメモは無理でしたので、彼の報告文を参考としたり、著書「大平悦子の遠野のものがたり」や、ネット情報なども使って、当日のお話の概要を書きました。

大平さんが、「私は生まれも育ちも生粋の遠野の人間です」「聞いておくれんせ」と語りが始まりました。

### ① つら(顔)の話: 著書「大平悦子の遠野のものがたり」より

むがすあつたずもな。ずうっと昔のごどだすが、ある時、人の顔(つら)さついでる、眉だの眼(まなぐ)だの鼻だの口だの耳だのが集まって、さまざまに自慢話してらったんだど。

まず眼が、……。そしえは鼻は、……。そしてば、今度、口が、……。耳は耳で、……。そうやって言い争っているうちに、一番役に立だねのは、眉だどなったんだど。

.....。

### ② 豆の話: Sさん記録より

むかし貧乏だが真面目にコツコツと働く、朝な夕なに神様を拝み、信心深い真面目な男がおった。暮らしが段々良くなってきたので、神様に「何をお供えしたら良いでしょうか?」「豆が欲しい。9つの料理をしてお供えして貰えまいか?」との御告げがあった。

油揚げ、納豆、豆腐、田楽、煮豆、炒り豆、?、? と男は8つ迄思い付いたが、もう一つがどうしても思いつかないので、神様に向かって聞いてみた。そうすると、神様が“お前の手に豆があるではないか?”

### ③ 東日本大震災:

◇ 2011.3.11 東日本大震災が襲いました。長年務めた教師を退職する20日前でした。

◇ 4月4日に遠野に行き、岩手の沿岸の町を回りました。想像を絶する光景でした。

- ◇ それからはたびたび被災地を訪ね、少しですが足湯のボランティアなどもしました。
- ◇ 遠野は盆地だが昔から交通の要衝だった。釜石にも近い。
- ◇ 陸前高田・大船渡・釜石・大槌・山田などの現況。
- ◇ 釜石市鶉住居(うのすまい)地区防災センターは推定で180人位が命を落とした。津波の避難訓練で使われたが、平地にあり津波の避難場所ではなかった。
- ◇ ここで助かった90歳のおばあさん、9人兄弟。75坪あった家は流された。9家族とも。皆が助かったから良かった。津波は日常を奪ってしまう。
- ◇ 筆者注:H30.3.31現在の被害状況では、行方不明者が未だ1,115名もいる。(文末資料)

④ 娘のシャレコウベ: ネット(提供: フジパン株式会社)より

むかし、あるところに、手間賃を取ってその日暮らしをしている爺があったと。

今日は四月八日お釈迦さまの誕生日だから、家でゆっくり休もうと思っていると、急に用を頼まれた。爺は、ゆっくり呑もうと思って酒をいれたトックリをぶら下げて、用先に出かけた。その途中で、広い野っ原にさしかかった。天気もよし、野の花もきれいに咲いてるし、この辺で一杯やろうと思って、いい塩梅の石を見つけて腰をかけた。チビリチビリと飲み出すと、すっかり気持ちよくなった。何気なく足もとを見ると、一つ



のシャレコウベがあった。爺は、「これはこれは、いかなる人のシャレコウベだか知らぬが、ちょうどええ。お前も一杯やりなされ」と言って、そのシャレコウベにも酒をそそぎかけ、自分も呑み、唄など歌ってから、「これでよい、これでよい、ああ面白い」といって楽しんだ後、そこを立ち去ったと。

用を終えて帰り路にその野っ原を通ったのは、すでに暮れ方であった。後ろから「もし、爺さま、ちょっと待って下され」と呼ぶ声がした。振り返って見たら、十七・八の美しい娘が立っていた。その娘は、「あの、今日は爺さまのお蔭で、本当に楽しかった。お礼をしたいのでここで待っていました」という。爺は、「はて、こんな美しい娘に知り合いは無いし、さては、これは狐だな。こりゃ油断ならん」と思って、「姉様、お前さんは誰だ」と言うと、娘は、「私は隣村の長者の娘で、三年前の丁度今頃、ここで急病になって死んでしまったのです。この月の二十八日は、私の三年忌に当たりますので、爺さまにご馳走します。その日は、どうぞここへ来ておくれ」と言う。爺はますます怪しいと思ったが、娘が余りにも真面目に言うので、「あい分かった」と約束したと。



さて、その二十八日が来た。爺は半信半疑で、野っ原に行った。すると、娘は約束たがえず待っていた。娘に連れられて行くと、ほどなく隣り村に出て、大きな構えの家に着いた。爺は、「俺は、とても入れぬ」というと、娘は、「私の着物の裾を持って下さい」という。爺が娘の着物の裾をつかむと、二人の姿は誰にも見えずに家の中に入れたと。

仏壇の間に座らされると、酒が供えられた。娘はそれを爺に呑めとすすめた。本膳が置かれると、それも食べた。屋敷の人々は、仏の前の供物がいつの間にか無くなるので不思議でたまらないのだと。

その内に、一人の女中が皿を落として割ってしまったと。家の家宝の大切な皿なので、皆が騒ぎ出したんだと。それを聞いた娘は、「こんな騒ぎを見るのは嫌だから帰ります」といって、出て行ってしまった。娘が立ち去った途端に、爺の姿が皆に見えて来たと。みんなはびっくりして、爺に屋敷に居る訳を聞いたと。

爺は、これまでの一部始終を語ったと。主人をはじめ、一同が驚ろいて、「それは、間違いなく家の娘だ。どこを探しても見つからなかった。ぜひ、その野っ原へ案内してください」と頼まれ、みんなを連れて野っ原へ行ったと。親たちは娘の骨を見つけて、家に戻ったと。そして改めて葬式を出して娘の魂を慰めた。爺は、その家から大変感謝され、手間取りをやめ、その家の手伝いをして、一生安楽に暮らしたと。

⑤ ザシキワラシ(座敷童子):Sさん記録より

庄屋さんの所の若い者が、蛇塚ができるくらい屋敷内の蛇を殺した。他の家の人には見えるが、その家の人には見えない座敷童子が引越して行ってしまった。、、、、。座敷童子は、その家に住み着いていて、その家の人には見えないが、他人には見える。座敷童子が住み着いていると、その家は栄え、逆にいなくなると衰退する。



⑥ 頭に柿の木:Sさん記録より

昔ある所に信心深い真面目な男がおって、観音様に7日7晩籠って願をかけた。7日目の朝に観音様が出てきて、明日の朝、坂を下りて行って、最初に会った物を大切にしなさい。柿の種に会った。額にくっつけていたら根が出てきて、直ぐにドンドン大きくなって、柿の実がなった。それを採って食べてみたら「こんなに旨い柿、俺ばかり食ってられねえ」と町に売りに出た。「頭柿は要らんかね～」大繁盛で直ぐに売り切れた。面白くないのは柿屋で、それを見ていて、人を馬鹿にして、何処に頭の上になった柿など、そんな馬鹿な事などあるはずがねえ。あの木みんな切り倒してしまえ。頭の上の木をナタで切る。



そうすると切り株からキノコが出てきて、それも大変美味しいキノコ。「頭キノコは要らんかね～」「オラさ売ってくれ～」と直ぐに売り切れた。今度はキノコ売りが面白くない。切り株を掘り起こしてしまえと、スコップで掘り起こしてしまった。

そうすると、その窪みに雨が降って水が溜まり甘酒になった。「頭甘酒は要らんかね～」これも直ぐに売り切れて、その男はお金持ちになったとき。 どんとはれ

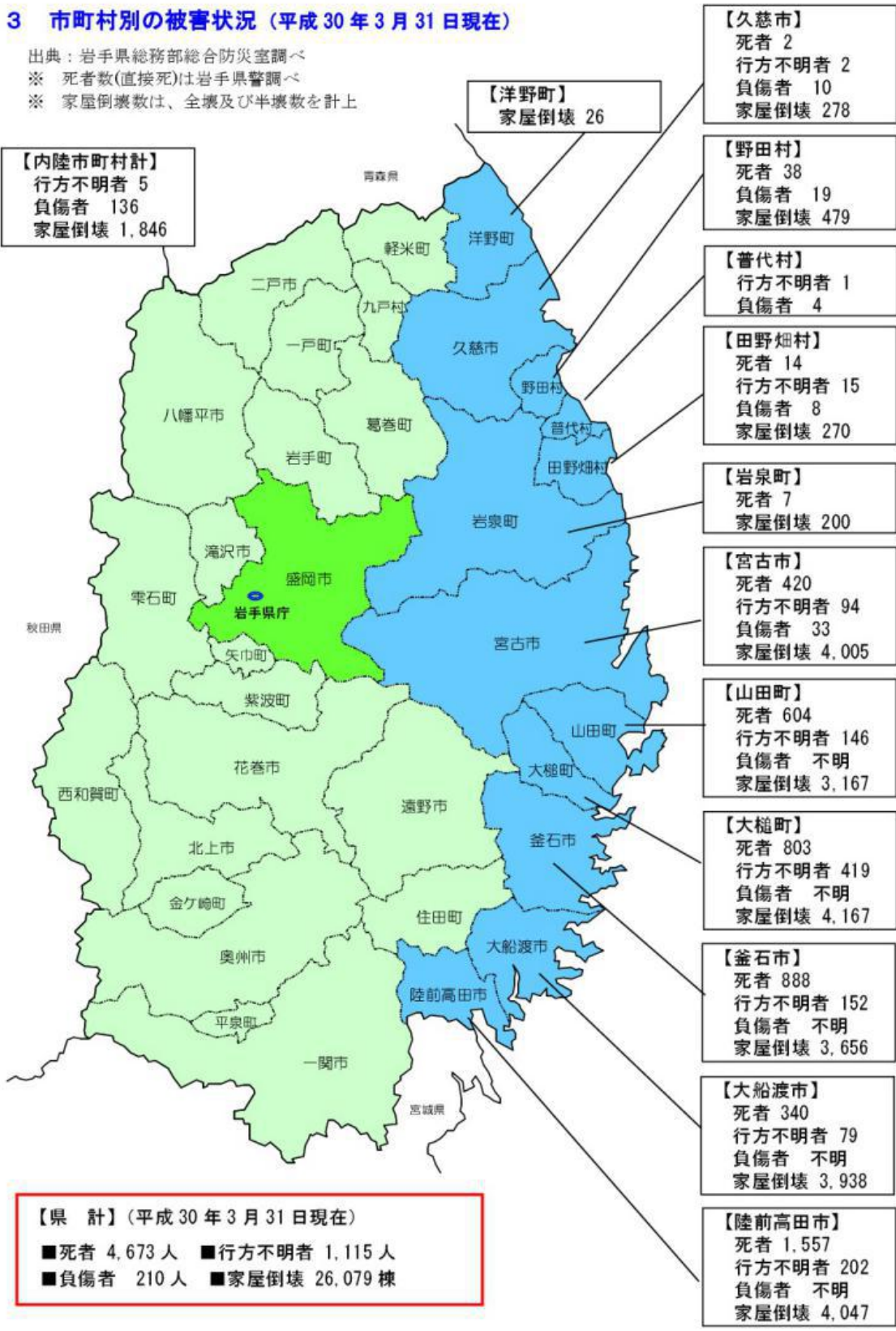
⑦ 字のない手紙:

夫婦喧嘩して妻が実家に帰ってしまった。

# 東日本大震災・被害状況(平成 30 年 3 月 31 日現在)

## 3 市町村別の被害状況 (平成 30 年 3 月 31 日現在)

出典：岩手県総務部総合防災室調べ  
 ※ 死者数(直接死)は岩手県警調べ  
 ※ 家屋倒壊数は、全壊及び半壊数を計上



# 私のふるさと福山市

開原 剛

福山市は広島県の東部に位置する県第2の中核都市で、約46万人の人口を有し、市政102年目を迎えています。

私は福山市の中心部から西約4kmの田舎で生れ、高校卒業までそこで育ちました。田舎育ちの為、郷土の伝統文化にあまり触れていませんので、月並みではありますが福山市の歴史の一端をうかがわせる福山城と、江戸時代の姿を現在に残す鞆の浦、それに昭和20年8月8日の大空襲について、以下記載したいと思います。

## 福山城

まずJRの福山駅に降りて最初に目につくのは、駅前の大通りと駅のすぐ後ろの小高い丘にそびえる白い福山城です。

この福山城は1600年の関ヶ原の戦いで勝利した徳川家康が、西国の外様大名の監視役として1619年に従弟の水野勝成を、大和郡山藩主から鞍替えさせて備後の国の藩主としたものです。当時の備後・安芸の藩主福島正則が、武家諸法度に違反したことを理由に改易となり、備後の国10万石の藩主となったものです。

水野勝成は1619年から築城に着手して、1622年には立派な福山城が完成し、その城下を福山と命名しました。福山城の天守閣は、江戸時代の城郭建築では戦国以来建てられた最も完成された姿で、優美で均整の取れた姿は武備一辺倒のものでなく建築学的にも名城でした。

建築時の福山城は南北600m x 東西600mで、姫路城の600m x 500mより大きかったことになります。

城郭の最上段が本丸で、その北側が一段と高く作られた天守閣が聳える。その南側が城主の居館であり、境は堅固な練堀で仕切られていました。

本丸内にはこの他にも、月見櫓、鏡櫓、伏見櫓、鐘櫓、湯殿など14棟の建物と、4棟の門が配されていました。



(2018年3月駅前のビルから撮影)

町の大部分は外郭に囲まれ、身分ごとに居住地域が分けられていました。

南側と西側は藩士の居住する侍屋敷が大半を占め、町屋は東側から南東にかけて集中していました。町割以上に気を配ったのが飲料水でした。吉津川を利用し蓮池を貯水池として、城下に給水するルートを作りました。この福山上水は全国で5番目に敷設されたものでした。

福山城は水野勝成から水野家5代76年間(5代目に跡継ぎが無く改易)、松平忠雄1代11年、阿部家10代161年間続きました。特に阿部家7代藩主阿部正弘は、僅か25歳で江戸幕府の老中となり27歳で老中首座に就任し、幕末の混乱期に安政の改革を断行し、ペリーと日米和親条約を締結し鎖国を終わらせました。

その福山城も昭和20年(1945年)8月8日に米軍の空襲によって焼失しました。その後昭和41年(1966年)に再建されて、今は博物館となっています。更にこの福山城跡一帯は城址公園となって市民の憩いの場となっています。

## 鞆の浦

福山の中心部から南に約 20km、バスで約 30 分の所に鞆の浦と言う港町があります。

沼隈半島の先端に位置し、江戸時代には朝鮮通信使がここに停泊して潮の良くなるのを待って、江戸に向かったと言う“潮まちの港”として古くから栄えた町です。

海上交通の衰退とともに賑やかさは減ったものの、鞆の浦にはその頃から残る常夜燈や、古い町並み・神社・町家が大切に保存されています。

日本で最初に国立公園にも指定され、江戸時代の面影を残し、江戸時代の地図が今でもそのまま使用できるような港町です。



(1869 年築。日本一の高さを誇る常夜燈)

又、鞆の浦は坂本龍馬の“いろは丸”事件としても有名です。

慶応 3 年 1867 年 4 月 23 日、海援隊が伊予大洲藩から借り受けた“いろは丸”が、備讃瀬戸(現在の岡山県笠岡市)で紀州藩船明光丸と衝突沈没した事件です。この事件の賠償交渉は最初は鞆の浦で行われましたが、決着がつかず長崎に移して行われました。

龍馬はしたたかな交渉力・広範な人脈を駆使した傑出した対応・戦略により、交渉を有利に進め、紀州藩から 7 万両(約 164 億円)の賠償金を受け取る事で決着しました。この 7 万両の行方については、8 日後に龍馬が近江屋で凶刃に倒れたこともあり、岩崎弥太郎に渡ったと言う説もありますが、はっきりしていなくて謎のままです。



(鞆港を望む)

最近では、鞆の浦がアニメ映画“崖の上のポニョ”のモデルとなったこと、更には鞆の浦湾に橋をかける事業が、住民の反対で中止になった事等々でも話題になりました。

## 福山市の空襲

米軍の空襲が激しくなった昭和 20 年には、私は満 4 歳でした。私の住んでいた所の東方約 4 ~5km に福山の市街があります。

昭和 20 年 8 月 8 日 22 時頃に、米軍の B-29 による福山の空襲がありました。おぼろげながら覚えているのは、東の空が真っ赤になり、何時間もその赤い空が続いたことです。

福山市には当時火薬原料を製造していた日本化薬(旧日本化薬福山工場)、照準器などを製造していた三菱電機(旧三菱航空機福山製作所)、帝国染料などの軍事工場や、陸軍歩兵第 41 連隊司令部およびその付属施設があった為、これらが主要攻撃目標とされたものと思われます。

この空襲により被災者は約 47 千人(当時の住民の約 80%)、死者 354 人と言う記録が残っています。(福山市の大空襲の記録による)

又、この空襲で 1622 年に水野勝成(家康の従弟、10 万石)が築城した福山城の天守閣も消失しました。

もう少し早く戦争を終えておれば、福山や日本全国の市街地も人的・物的損害が少なくて済んだと思うと複雑な気持です。